

## HiT Software のデータ統合ツール Allora と DBMoto の事業的価値



株式会社クライム

## はじめに

今や企業が成功するためにデータ統合は重要な課題になっています。 企業間競争は情報に基づく意思決定のためにリアルタイムに利用可能なセンター集中データベースを持つこと、既存の業務に負荷をかけずに既存のデータが利用できる新しいアプリケーションを購入すること、企業データのアクセスとメンテナンスの総合的費用効果と生産性を向上することなどを常に強要しています。 もっとも挑戦的なデータ統合の例として多種類のプラットフォーム間にまたがる多くのデータベースからのデータ収集がありますがソリューションは総合コストの低さ、既存システムとの親和性、インストレーションの簡単さ、簡単な使用法、オープンな拡張性に富む構造などで評価されます。

このドキュメントではデータ統合が必要な企業が直面する問題点を説明します。 そして主要なデータベースの統合手段として、企業内の独自開発、単一ベンダーの企業向けソリューション（シングルベンダー・エンタープライズ・ソリューション）、専用のツールを用いたデータ統合のカスタム・ソリューションのそれぞれを企業にとっての事業価値から比較評価をします。

## データ統合ツールに期待されるもの

すべての業種にとって事業運営の成功はデータ活用にかかっています。 理想的には企業は入手可能な最新技術を駆使して彼らの特定の事業要求に合わせゼロから情報システムを構築することができます。 しかし現実には長年の活動で蓄積された種々雑多な基幹システムとデータベースに新たなアプリケーションを加える方法を見つけるのに大変苦労しています。 以下はデータ統合が成功するために注意を要する主要な項目です。

### 運用の連続性

費用効果の面から新しいデータ統合アプリケーションは既存のアプリケーションとデータベースの運用に混乱をきたさずに導入と保守ができるべきです。

既存のデータベースと関係する新しいアプリケーションを追加する場合はできるだけ現行のシステムからデータを複製してパフォーマンスへの影響を防ぎ、新しいアプリケーションが引き起こすであろうトラブルから隔離すべきです。 データ複製（レプリケーション）は通常はサーバにサードパーティのソフトを入れる必要はありません。 たとえばオラクルや DB2 を採用している顧客が Web 関連のアプリケーションを作る場合などよくマイクロソフト SQL サーバ、MySQL、あるいはそれ以外のデータベースを用いてデータベースの複製を行います。 この方法で既存システムの混乱無しに低価格のデータベース・サーバを用いて種々のインターネットツールを活用できます。 データ複製には 一方向、双方向、バッチ処理的コピー（マイグレーション）、継続的更新（リアルタイムミラーリング）があります。

近年の急速に増加している傾向は既存の基幹システムにインテグレーション・サーバと Web サービス・システムを加えて、基幹システムからデータを引き出した結果を XML フォーマットに変換し新しいアプリケーションへの入力としています。 既存の運用系、基幹システムには手を加えません。 この手法では最大の相互の運用性を確保しつつどんなプロセス、アプリケーションにも容易にメッセージや XML 文書を入れることができます。

企業はデータ交換の標準に準拠したアプリケーションを採用すべきです。データベース供給者やサードパーティから供給されるリレーショナル・データベース相互結合製品はあらゆるデータベースのあらゆるバージョン、あらゆるファイル・フォーマット、さらに基幹システムとその将来のバージョンまで含めたあらゆるアプリケーションをサポートします。 .NET、OLDBE、ODBC ドライバー類はウィンドウズの開発市場に供給されおり JDBC は JAVA の世界で標準として使われています。

JDBC Type4 ドライバーはゲイトウェイの必要性をなくすことでパフォーマンスと移植性を向上させました。 ひとたび新しいアプリケーションと標準ドライバーが供給されるとすぐに顧客のデータベースエンジンの新しいバージョンをサポートするデータ統合ツールの最新版がリリースされます。 このように将来にわたりリリースされるデータベースの新バージョンは自動的にサポートされることとなります。

## 基幹システムとの相互運用性

データのレプリケーションは基幹システムのデータベース・サーバにサードパーティのコンポーネントをインストールすることなしに実現されるべきです。 小型で費用効果に優れたマイクロソフトの SQL サーバや MySQL へのデータの一方向（リフレッシュ）または双方向（ミラーリング）のデータ移動は基幹システムにまったく影響を与えずにデータへアクセスすべきです。

Web サービスあるいはアプリケーションから基幹システムのデータに対して読み出し専用、あるいは読み書き両方でアクセスする場合、XML とのデータ交換が SQL の直接アクセスを用いた伝統的な複写（レプリケーション）ミドルウェアを用いたやり方に代わるデータ統合ソリューションになりつつあります。

## データウェアハウスのサポート

典型的なデータウェアハウスは企業の全データを格納して利用者が事業の動きを検証したり予測をしたり計画立案するためのデータを引き出すことを可能にします。 利用者が要求するデータを提供するために複雑なデータの変換が必要なデータウェアハウスのためにデータ統合ツールと ETL（Extract, Transform and Load）ツールが供給されています。 これらツール類はバッチやリアルタイムの運用でデータウェアハウスを構築するためにも利用者が企業データにアクセスするためにも使用されます。

## 安全なデータアクセス

インターネットのような公衆ネットワークを経由してデータの共有と統合を行うシステムが増えるにしたがってデータの安全性の重要性も増加しています。 データの統合を行うすべてのアプリケーションにとってデータの暗号化、利用者の認証確認、安全なデータ転送などの安全性項目が重要です。 業務利用者がリアルタイムで業務データに容易にアクセスできるようにすることは同時に不正利用者からデータを守る必要性をも増加させることとなります。 今日ほとんどの事業にとってデータは血液のようなものでありその紛失、劣化、盗難などは即事業の失敗になりかねません。 セキュリティーはネットワーク、プロトコル、データの各層に組み込み可能です。 多くのソリューションがありますが往々にしてそれらは複雑で必ずしも既存のシステムに対応できるとは限りません。 この点で標準的な安全対策に完全に合致したデータ統合のソリューションを選ぶことが重要となります。

## データの Availability

データ統合のソリューションを採用する場合データベース・サーバのデータの Availability を高く保つことが重要です。データ複製ツール（レプリケーション）はデータベース・サーバの負荷を増すことなく、データが絶対に改変されない完全な保証のもとに利用者がデータを基幹データベースから引き出すことができるようにします。重要なデータベース・サーバのミラーを作ることでこれらツールは企業データ Web や業務アプリケーションから容易に利用可能とします。複製時にターゲットのデータベース・システムは必ずしもソースデータベースのベンダーと同じところから調達しなくても良いことは重要です。事実顧客はたびたびターゲットのデータベースベンダーとして顧客の社内要求に応える価格効果に優れ機能的で拡張性のあるアプリケーション開発の組織を持つ会社を選びます。

さらにデータ交換の標準語的な XML の興隆にしたがって、工業標準委員会の定める特定の意味付けや XML の構造に従って企業内データを見ることの重要性が増しています。XML のデータ転送ツールは SQL のデータ要求の複雑さを隠して基幹データベースからリレーショナルデータをテキストベースでだれでも容易に読み取れるフォーマットにしたり、XML データをリレーショナルデータとしてデータベースに容易に書き込こんだりすることを可能とします。XML はデータの意味付けと内容が自然に表現される標準様式でありどんな統合プロジェクトでも基準となりつつあります。XML データ転送ツールは基幹データベースと併用可能でサーバの運用に影響せずにデータ転送を行います。

## 異種混合データベースのサポート

多くの企業は複数のベンダーのデータベースを運用しています。従ってデータ統合ソリューションはそれぞれの IT サイクルで進化する異種混合環境の中で容易に複製を作成できることが重要になります。複製（レプリケーション）ツールは一度にデータをソースからターゲットへ写してしまう手法、データベース間の継続的なミラーリングと同期処理の 3 種のオペレーションを提供します。複製ツールは運用データストアや更新の間は独立に運用される分散データベースのセンター DB とリモート DB のデータ分配に使用されます。理想的な複製ソフト（レプリケーションソフト）は Oracle, DB2, SQL サーバ, Sybase, MySQL などの代表的なデータベース間の読み書きができるべきで、さらにいろいろなデータベースを ODBC, OLEDB, .NET, JDBC などのデータベース結合手順を介してアクセス可能であるべきです。つまりこれらのツールはストアードプロシージャを含む SQL 機能を完全にサポートすべきです。XML もまた異種混合環境において重要な役割を果たします。

## レプリケーションと異機種混合プラットフォームのサポート

企業のデータとアプリケーションが異機種のハードウェア上に存在する会社にとって機種独立あるいは複数機種上で稼動するデータ統合ツールとソリューションは容易に使用できそうで最初は魅力があります。しかし複数機種上で走るツールはそれ自体の限界があります。ツールを新しいプラットフォームに移植する際にいくつかの機能が失われたり、変更されてしまうことがあります。ツールソフトウェア・ベンダは複数のプラットフォームの更新に同期して製品の更新を行うことが出来ず、すべての製品を同じレベルに保つことも出来ないかもしれません。こんな訳で多くの場合ありふれたプラットフォーム上で走り複数機種プラットフォームにアクセスでき、動作可能なソリューションが好まれます。このやり方はすべてのプラットフォームに対して機能が同じことを

保証するのでトレーニングと運用コストを削減できます。

## スケーラビリティ

データ統合ソリューションを選ぶときにスケーラビリティは重要な項目になります。システムに含まれるデータ量を当初正しく見積もった場合でもアプリケーションは時間経過とともに増加するデータを処理できなければなりません。リレーショナル・データベースのベンダーはシステムの並行動作、ロードバランスなどを可能とする補強も含む信頼性とスケーラビリティに実績があります。データ統合ソリューションも大量のデータに対するツールの信頼性と耐久性を示すことが必要です。評価テストと市場でどれだけ長く存在しているかからツールの信頼性を評価するのに加えて顧客の評判や使用事例を見ることも大切です。

## オープンシステム

異なったプラットフォーム上で走る各種のアプリケーションやデータベースから構成される典型的な異機種混合システムでは顧客システム専用のサーバと関連するアダプタなどからなるデータ統合ソリューションを追加することはコスト、保守性さらに特定ベンダー社に依存せざるを得ないと言う大きなリスクを負うことになります。企業の情報システムが業務ごとに最適のツールを選択することで発展してきたなら企業はデータ統合にも同じ手法を使うべきです。データ統合ソリューションは将来必要なときに必要なコンポーネントをシステムに追加できるようにオープンなシステムであるべきです。

データベース・ベンダは通常彼らのデータベースに顧客を囲い込もうとします。たとえ互換性データベース・ソリューションを提供してもデータを他社データベースから自社データベースに持ってくるだけのことが多いのです。異機種混合のデータベースが共同で動作する環境で満足に動作するデータ統合を行うための唯一の方策は独立系アプリケーションを採用することです。

## コスト

データ統合ソリューションにかかるコストは4つに大別されます。

- ・ ライセンス、コンサルティング、サポートなどの初期購入費用、
- ・ 関連要員の人件費として訓練、インプリメント、改造などの初期費用と以降の運用費用
- ・ アップグレード、追加のコンポーネント費用
- ・ 他社製品に乗り換える、ソリューションベンダーが事業を停止するなどに際しての撤去費用

企業が投資を判断する場合に上層部はえてして現在の売上が増える投資に目を奪われ勝ちなことを考えるとデータ統合の低価格な手段を持っていることはプロジェクト成功の重要項目になります。

## データ統合のオプション

企業にとってデータ統合の必要項目を調べたら次に実現可能な統合手段の検討が必要になります。可能なソリューションには自社の IT チームが計画から製造まで行うドゥーイットユアセルフ式から大変な費用と時間を要する一社から供給される企業全体を包括する完璧なソリューション（シングルベンダ・エンタプライズ・ソリューション）であります。

### ドゥーイットユアセルフ式ソリューション

IT チームはよくデータ統合の必要に対して直接的に SQL、Perl、Java などのコードを用いてコーディングを行います。しかしこの手法はすぐに手がつけられない状況になってしまいます。

- ・ 保守

IT チームの要員は交代あるいは新しい技術が導入されるたびに導入済みのソリューションの知識が失われていき、このためにデータベースのアップグレードあるいは新しい OS がリリースされた時に保守が問題になります。保守費用はどのシステムでも最大のコスト要因です。

- ・ 移植性

困ったことに目前の問題に対応するためのその場しのぎのコーディングが恒久化してしがちです。それは当座では動いていても、開発者はもっと汎用的なコードに改良する時間は取れません。次々に別のプラットフォームに同じような対応が必要になってきます。開発されたコードはプラットフォーム専用になっていて開発者が会社を去った後でそれがわかります。そのために新しいプラットフォームに対して今までのその場しのぎのコードを移植すると言う多大な投資が必要になってしまいます。

- ・ 人件費

データ統合ソリューションを社内で開発する道を選んだ場合に現有のシステムを理解する、社内開発システムの評価テスト、開発されたソリューションの教育、インプリメントなどのコストは見逃されがちです。さらに開発者や開発グループになされた時間と言う投資は彼らが会社を去るとともに失われてしまいます。

- ・ 最適でないソリューション

社内の開発チームは既存のシステムに対する高度の専門的な知識はあります、しかし新しい言語、新しい技術が必要なソリューションが求められるときチームは最適とはいえない結果を招きかねません。それは性能上の問題であったり大切な GUI の内容が不十分であったりします。とどのつまりは大きな開発投資をしたにもかかわらず会社にとって業務効率の低下となってしまいます。

- ・ 増加する一方の複雑さ

多くの場合社内開発は眼前の問題の解決策としては最も時間がかからない方策になりえます。しかし経費と人員を最小にするだけに注目する結果将来の拡張に対応できる汎用的なソリューション開発は行われなことが多いのです。

- ・ 利用可能な時間

社内開発の場合 IT チームは日常の責任範囲に加えて新しいプロジェクトをこなさなければならない場合が多くなります。例をあげれば小規模な Web 関連事業においてソフト開発が得意な Web マスターがデータ統合問題を解決するように依頼された場合かれは同時にフルタイムの Web の面倒を見る仕事とセールスを助ける仕事をもっています。従って開発の優先度は日常の Web 関連業務の次となりデータ統合の実現は遅れることとなります。

社内開発の利点は既存のシステムに精通しデータ統合の要求をよく理解した社内の専門家を使えることと手ごろな専用のソリューションを採用できることにあります。しかし一見社内開発は費用がただのように見えますが手作りのデータ統合ソリューションが費用効果に優れると言うのは幻想に過ぎません。開発チームの給与を払い IT プロジェクトに従事させて開発者を会社の本来の目的に合ったもっと戦略的なプロジェクトに参加させることが出来なくなります。

統合ソフトウェアパッケージ製品がソリューション提供します。パッケージを購入するための初期投資は必要であっても社内メンバーがニーズに合ったパッケージを選ぶことに専念すれば結果としてソリューションは費用効果が良いものになりえます。

## シングルベンダ・エンタープライズ・ソリューション

パッケージ化されたソリューションを手に入れる可能な一つの方策は企業向けソリューションパッケージの購入です。企業向けパッケージの主張はデータ統合分野の専門家を擁する一社と取引することで予見しうる将来まで考えたすべてのデータ統合の要求を満たせるかもしれない点です。

シングルベンダーエンタープライズソリューションは以下のようなベンダーが提供しています。

- ・ データベースベンダーは既存のデータを変換して統合するツールを用いて彼ら自身のデータベースシステム上にすべてをとりまとめて企業全社にわたるデータ統合の基礎としています。
- ・ アプリケーションサーバベンダーは各種のデータベースのアダプタとアプリケーション構築のための開発環境を提供しています。
- ・ データ統合専門会社はフルラインのソリューション製品かあるいはコンサルティングと事前に用意されたコンポーネントのセットを持っています。

上記のいずれを採用するにしても顧客は以下の点を受け入れることとなります。

- ・ 購入コスト

シングルベンダ・ソリューションは既存の異機種混合環境で統合をおこなうための強力なデータ変換と複製能力を持ち複雑なデータ変換を行い主要なデータベースとアプリケーションサーバ間のインターフェイスをとることが可能です。しかしシングルベンダ・データソリューションの最低価格でもハードウェア、CPU の数、OS により異なりますが、10 万ドルから 50 万ドル以上にはなります。さらにインストール、セットアップ、トレーニング、サポート、初期仕様に対する変更のコンサルティングなどは別料金になります。

企業はシングルベンダ・ソリューションがすべての用途に対応する機能を入れたために持っている複雑さから、これらサービスの費用が初期のライセンス費用よりはるかに高くなることを認識すべきです。ほとんどのシングルベンダ・ソリューションは一企業が普通に要求する用途以上のものを提供しています。結果としてこのタイプのソリューションを購入する場合に購入者は不要なもの料金まで払わされているのです。

- ・ 専用エンジン

シングルベンダ・ソリューションは普通専用のエンジンや言語を使用します。これらはベンダからのコンサルタントの力を借りて複雑な設定とチューニングを行うことが必要になります。初期設定に対するいかなる変更、カスタム化もコンサルティング費用や社内でシステム運用するための従業員に対する再訓練のための追加投資が必要となります。

さらに企業は専用言語は包括的であるが、拡張性に欠けることを理解すべきです。もし企業の要求が変化するなら拡張性があるソリューション会社を選ぶべきです。

シングルベンダ・ソリューションの評価を考えるなら顧客自身の環境へのインストレーションとセットアップをモニターすべきです。これは製品の複雑さと柔軟性に関する良い情報を与えてくれます。

- ・ インプリメント

複雑なインストレーションとセットアップが必要なシングルベンダ・ソリューションに大きな投資をした会社は当然ながら全社に渡りソリューションを適用しようと考えます。これはソリューションのインプリメントに伴い、会社の各部門で作業の中断と障害が発生することを意味します。さらにインプリメントに際して新しいシステムがテストされ信頼性が確認されるまで既存のシステムを平行で運用するために人とマシンのリソース追加が必要になります。インプリメントの計画は日常業務に影響が最小になるように慎重に決めねばなりません。

## カスタム・ソリューションのためのツール

多くの場合顧客専用が開発された（カスタムビルド）ソリューションやシングルベンダ・エンタープライズ・ソリューションのメリットより、上手に設計された統合ツール群がもつメリットのほうが優れます。適切に選定されたツールは統合ソリューションのいかなる問題をも解決するデータ変換能力、柔軟性、拡張性を提供出来ます。

このアプローチは“手持ちのものは活用し、不足分だけ買う”アプローチと言われ、今までの社内投資と専門家を生かしながら特定の要求を満たすデータ統合ソリューションの容易な、迅速なインストールを可能とします。

- ・ 総合的に少ないTCO

包括的な統合ツールは以下の理由で統合コストを低く抑えます。

- ・ システム間のデータマッピングのための理解しやすいユーザ画面により、コストのかかる専用コーディング不要化。

- ・ プログラマーをもっと戦略的なプロジェクトに投入可能とする開発リソース最適化。
- ・ 迅速なインプリメントと展開による全体の統合コスト低減。
- ・ ODBC, OLEDB, JDBC, .NET などの広範囲なデータベース接続の標準的な手順とフォーマット、あるいはXML, SQL, Java, マイクロソフトのプラットフォーム上のプログラム言語などの標準的言語、さらに JMS, MSMQ, SOAP などのメッセージ標準など既存の標準を活用。

社内開発時の最大のコストはトレーニングと学習、専用コード開発、保守など人件費です。 現有の要員の専門知識を生かして開発と展開を迅速にできるツールを採用することでコストを顕著に低減できます。 そして柔軟性とパフォーマンスと拡張性を確保するためには製品への最低限の投資が必要です。

他方シングルベンダ・エンタープライズ・ソリューションのインプリメントコストは高額の初期ライセンス費用、展開に際しての無視できないシステム停止時間、導入時のカスタマイズと保守のコンサルティング費用を伴います。 これらのソリューションは専用化され大変複雑化しているために専門特化したコンサルタントを高い経費で頼むこととなります。

- ・ 迅速なインプリメント / 市場対応

市場対応を急ぐ会社にはパッケージ・ソフトウェアがすばやい習熟曲線、設計容易なツールなどを提供します。 これらは社内の特定の統合要求に的を絞った問題を適正な出費と時間内に解決するツールを提供出来ます。 たびたび小さな IT チームが最適の開発ツールを使用して驚くような成果を上げることがあります。 多くの例で 1 人の開発者が以前に大部隊の開発メンバーとコンサルタントが失敗した仕事で優れた結果を出していることもあります。

- ・ 非専用、標準に基準

多くの利用可能な統合ツールが標準的言語とコンポーネントに頼っています。 例えばツールは一つのデータベースからもう一つへのデータ変換に、あるいはリレーショナル・データベースと XML 間でデータを移す場合に Java スクリプトや VB スクリプトを使用します。

企業は .NET, JDDBS, ODBS, OLEDB などの標準プロトコルに準拠した統合ツールを探すべきです。 これらのドライバ / プロバイダはほとんどすべてのデータベースタイプに対応しているのでこれらを使用している統合ツールは異機種混合のデータベースの統合に対応します。

標準的データアクセス手順を採用することでデータ統合ツールはさらに柔軟で優れた費用効果を持ちます。 また開発努力はアクセス手段の効率向上のための作り直しではなくデータ統合そのものの問題解決に振り向けられます。 このアプローチは専用のソリューションに閉じこもるのではなく、幅広い時間とともに進化するソリューションを保証します。

- ・ 立証済みの高い信頼性と高性能

社内で統合アプリケーションを開発する場合に繰り返し行わねばならないことにテスト過程があります。 対照的にパッケージ化された統合ソリューションは既にテストされ安定したパフォーマンスと高い信頼性を提供するためにテストに要する力は大幅に削減されます。 積み重ねられた開発の歴史は直接的に品質に比例します、急速に成長している大企業が重要な事業のアプリケーションにこれらのコンポーネントを信頼して使用していることが何よりの証拠です。

- ・ 入手の容易性

多くのデータ統合ツールはオンラインでダウンロード可能です。従って大金を払って大人数のコンサルタントを頼むこと無しにツールが使いやすいか、機能は充分かを自分自身で確認できます。 ツールなどの製品を Web 上で入手可能にしている会社にとってはソフトウェアツールが使いやすいかどうかは成功の大切な条件です。 結果としてこれらの会社は顧客を失望させることが少な苦なります。

- ・ テクニカルサポート

最も使いやすいツールでも時として障害を排除しソフトウェア開発を加速するために専門家からのサポートとアドバイスが必要になります。 テクニカルサポートは常に迅速、正確、簡潔、かつ親切であり地球上の時差にかかわらず支援することが必要です。 知識の集約とドキュメンテーション、多くの顧客で構成されるコミュニティもまた重要です。

## HiT Software のデータ統合ツール

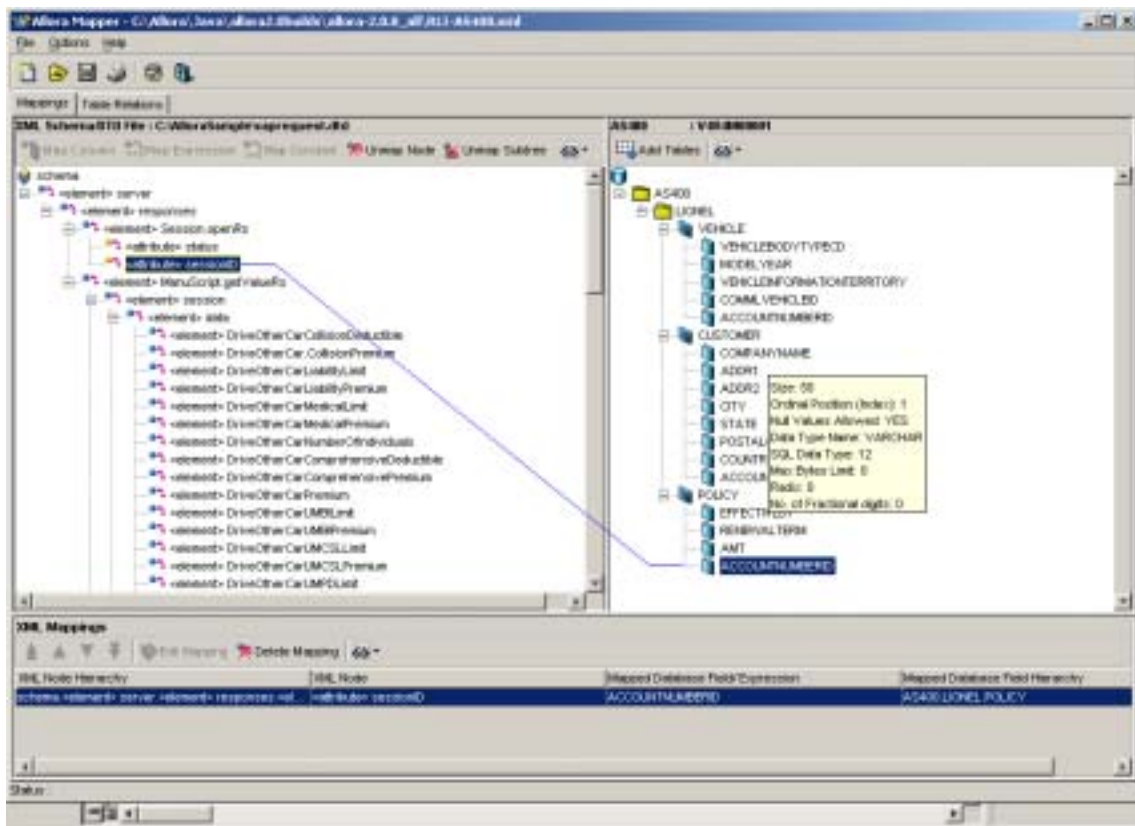
10年以上にわたり HiT Software の統合ミドルウェアは使いやすさ、規模の大小にかかわらず対応すること、高性能で知られています。 HiT Software は以下の点でよく知られています。

- ・ データアクセスツールの専門家
- ・ わかりやすい標準の採用
- ・ 異機種混合データベースに対するデータアクセス製品

企業のデータ統合ニーズに対応するために Hit Software は XML とリレーショナル・データベース間の双方向データ移動の目的に Allora を、データベース間のデータリプリケーションの目的に DBMoto を、システム間通信の安全性のために SafeConduct を提供しています。

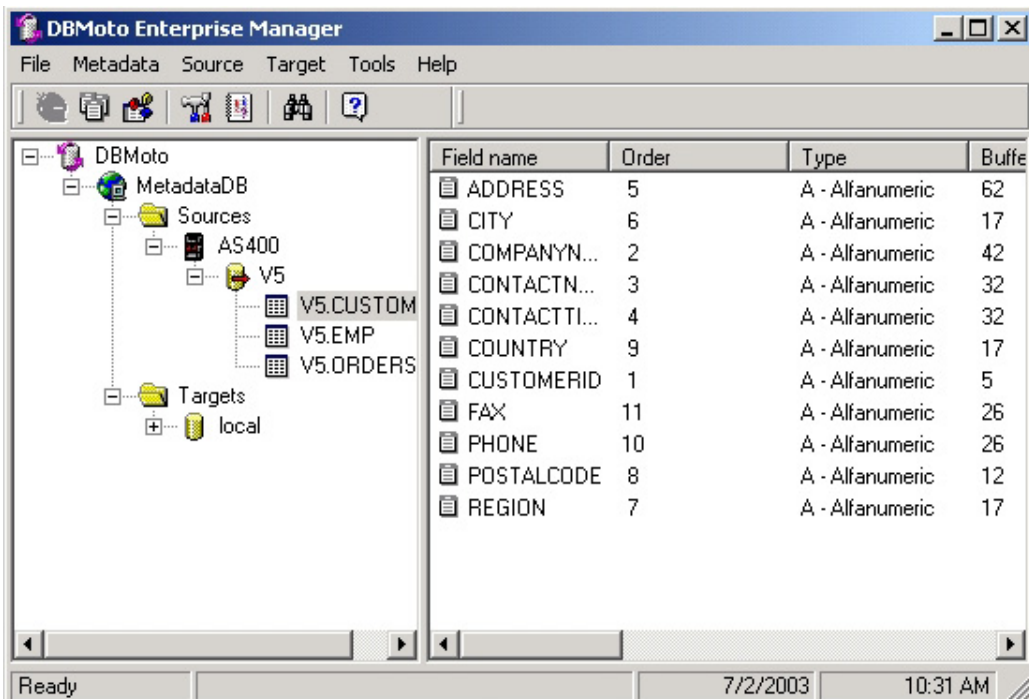
## Allora

Allora は最先端の XML マッピングやデータベース技術を活用してアプリケーション開発者に対して複雑な SQL や XSTL のプログラミング無しでリレーショナル・データベースへ双方向アクセスする手段を提供します。 Allora は XML のエレメント、属性とリレーショナル・データベース間のデータ構造の変換を正確に透過的に行う視覚的なマッピング手段を用いて開発と展開を加速します。 Allora のマッピングが一旦採用されれば XML とリレーショナル・データベース間の完全な双方向のアクセスが可能になります。 Allora はリレーショナル構造をもつデータベースに XML の構造をもつデータを組み込もうとする挑戦的な仕事に特に適しています。



## DBMoto

DBMoto (旧 DB2motion)は企業の基幹サーバとデスクトップ間のデータの複製(リフレッシュ)やリアルタイムデータ・レプリケーションに使用されます。 IBM DB2, UDB(iSeries / AS400, zOS) Oracle, Microsoft SQL Server, Subase Adaptive Server Enterprise, MySQL, PostgreSQL、Microsoft Access など主要なデータベースがサポートされています。 リフレッシュモードではDBMotoはソースデータベースからデータを読み出して、管理者が規定したマッピングルールに従って変換しターゲットデータベースに書き込みます。 ミラーリングモードではDBMotoはトランザクションログを基にリアルタイムに逐次レプリケーションを実行します。 3つ目は双方向ミラーリングで企業のデータベースのシンクロナイゼーションを可能にします。 強力で簡単なアドミニストレーション・ウィザードがセットアップを大変簡単にします。他のデータレプリケーションツールと異なり DBMoto は標準的なスクリプト言語を使用することデータのレプリケーションと変換が無制限にコントロールが可能です。



## SafeConduct

SafeConduct はデジタル認証、256ビット暗号化を含む Secure Socket Layer(SSL) V3.0 標準に準拠しておりポイントツーポイントのデータ通信に使用します。多くの企業アプリケーションでは重要なデータを暗号化やユーザ認証無しにインターネットやVPN経由でアクセスしています。このような基幹アプリケーションのデータ通信は不正アクセス、改変の恐れがあり情報保護とデータの品質を危険にさらしています。 SafeConduct は既存のアプリケーションに何ら影響せずに事実上すべてのデータアクセスを保護することでこれらの危険を取り除きます。 SafeConduct はクライアントサーバシステム、ホストスレイブシステム、多階層システムなど各種システムに使用できます。

使用例としてはアプリケーションのデータアクセス、ファイルトランスファーユーティリティー、端末エミュレーション接続、Eメールアクセス、リモートモニターなどが例としてあげられます。これらのサードパーティーあるいは社内開発のアプリケーションは透過的に安全確保されソースコード変更は不必要です。

これら3つの製品は効率的で、費用効果に優れる軽いデータ統合ソリューションのために以下のようなことを提供します。

## ・ パワーと使いやすさ

HiT Software の Allora と DBMoto は洗練されたデータ変換を使うことでソースとターゲット間の大量データ転送を可能とすることが特徴です。これらのツールは小企業あるいは大企業の各部門の行う統合システム的设计、展開と管理のために多機能で各種定義可能な製品を提供します。HiT Software のマッピング機能は使用も管理も簡単でスタッフのスキルにかかわらず生産性を向上させます。HiT Software のすべての製品はプロジェクトリスクを減らすだけでなくシステム変更や新しい要望によって引き起こされる影響も最小化します。HiT Software の統合化製品は異なる機種上にある基幹システムのデータを JDBC, .NET, ODBC, OLEDB などの標準データアクセス手順を用いて読み出します、従って既存システムには何ら改造が不要です。

## ・ 追加的なデータ安全性

安全性問題に対して HiT Software は2つのシステム間にポイントツーポイント通信の安全を確保するために Secure Socket Layer (SSL)を用いたデータセキュリティオプションを用意しています。SafeConduct はどのようなプラットフォーム上でも動作し2点のTCP/IP ノード間に目に見えない安全チャンネルを構築し256bitの暗号化を可能とします。他のHiT Software 製ソフトウェアと同じくこれは既存システムに対してモジュールを追加することは不要でシステムとアプリケーションになんら悪影響を及ぼしません。

## ・ 軽さと柔軟性

ほとんどの場合データ統合製品は専用エンジンを用いてデータを処理しますが、Allora と DBMoto は軽量で大規模なサーバコンポーネントを設置する必要がありません。データ変換はインタラクティブに行われるか、あるいは今後長期間にわたって標準になる Java や.NET を用いた単純な API から呼び出されます。

## ・ 業界標準を用いた相互運用性

HiT Software は ODBC, OLEDB, JDBC, .NET など接続標準を使用することでいかなるプラットフォーム上のいかなる規模のデータベースにも対応可能です。UPS やアメリカン航空と言ったIT分野のリーダー的大企業に10年にわたりデータベース・ミドルウェアを開発、納入した実績を生かして HiT Software は20以上のデータベース・ベンダに対して彼らのXML とリレーショナル・データベース間のデータ変換ツールとして Allora を供給しています。加えてDBMotoは.NET, OLEDB, ODBC 経由で主要なリレーショナル・データベースのほとんどに対して使用可能です。

## 結論

グローバルに活動する大企業にとっても数台の PC サーバ上データを走らせている小さな会社にとってもデータ統合はビジネスのあらゆる状況で絶え間なく変化し続ける課題です。ある日主要な供給元からすべての事業パートナーに対して手順を XML 化する要求が出され、また別の日には会社の新しい Web アプリケーションが安全なデータサーバに格納されたデータをサーバのパフォーマンスと信頼性に影響すること無しにアクセスする必要があるかもしれません。このような要求に効果的に応えるために IT 要員は効果的に迅速に行動する必要があります。最適の解決法のひとつにはオープンスタンダードに基づいた柔軟なデータ統合ツール群と費用効果に優れた拡張性のあるソリューションを進んで採用する IT チームがあるでしょう。HiT Software の Allora と DBMoto 製品はデータベース統合プロジェクトのために信頼性が高く拡張性があるシステムを開発する全ての IT チームの強力な力になります。

この資料は HiT Software の White Paper 「The Business Value of HiT Software Data Integration Tools: Allora and DBMoto」を翻訳したものです。

2005 年 5 月

株式会社クライム

Tel:03-3660-9336

FAX:03-36609337

Email: [soft@climb.co.jp](mailto:soft@climb.co.jp)

<http://www.climb.co.jp/soft>